

安来市立病院の現状について

1. 沿革

安来市立病院は、昭和 30 年 5 月に広瀬町外四力村組合が国民健康保険診療施設として開設し、内科・外科・産婦人科の 3 診療科 58 床（一般 42 床、伝染病 16 床）をもって地域医療を開始しました。昭和 31 年の結核病棟増築を経て、昭和 35 年には開設主体が広瀬町へ変更されて以降、整形外科や小児科、皮膚科などの診療科を順次拡充してきました。昭和 44 年から 45 年の全面改築により鉄筋コンクリート造の 3 階建ての新病院が完成し、一般 70 床・結核 20 床（昭和 51 年に廃止）・伝染病 27 床の体制を整えました。昭和 50 年代には病床増加が進み、昭和 58 年には一般 120 床・伝染病 27 床（平成 2 年に廃止）を備える病院へと発展し、昭和 61 年に救急告示病院の指定を受けました。

平成期には、CT・MRI など高度医療機器の導入を進め、平成 2 年から 5 年の 3 カ年継続事業による大規模増改築により一般 174 床の体制を確立しました。また、保健センターの併設や介護保険事業の開始、人工透析の導入など、医療・介護・福祉を一体的に提供する仕組みを整え、平成 12 年には 217 床（うち療養型 48 床）を備え、地域医療の中核病院としての役割を強化し、平成 15 年には地域医療拠点病院の指定を受けました。平成 16 年 10 月の一市二町の合併により安来市立病院へ改組され、臨床研修病院指定、DPC 対象病院認定（令和 8 年 6 月 1 日退出）、専門外来の開設など診療機能の充実を図りました。

一方で、平成 20 年前後から医師不足や看護職員確保の困難により産婦人科を廃止したほか、訪問看護の休止など診療体制の縮小が進み、また、その後の再編により平成 27 年には 183 床（一般 135 床、療養 48 床）へと減少しました。平成後期から令和にかけては、電子カルテ更新（平成 21 年導入）、地域包括ケア病床への移行を進めるとともに、平成 29 年には「新改革プラン」において急性期医療の継続と在宅医療の提供を掲げ、病床数を 148 床（一般 102 床、療養 48 床）へ見直しました。令和 2 年のコロナ禍以降は看護師数に応じて稼働病床数を調整しながら病棟運営を行う状況が続いていましたが、令和 5 年度に策定した「安来市立病院経営強化プラン」において、持続可能な地域医療の確保に向けて病棟編成と病床数の適正化の方向性を示し、令和 8 年 4 月に許可病床数を 124 床（一般 84 床、療養 40 床）としました。総合内科の開始や訪問看護・訪問リハビリの再開など地域医療を支える体制を再構築しながら、現在に至っています。

表 1 病院の概要（令和 8 年 4 月 1 日現在）

所 在 地	島根県安来市広瀬町広瀬 1931 番地
開 設 者	安来市長 田中 武夫
事業管理者	山崎 泉美
病 院 長	水田 正能
病 床 数	124 床（一般 84 床、療養 40 床）
標榜診療科	診療科目：22 科 内科、消化器内科、総合内科、小児科、整形外科、婦人科、麻酔科（ペインクリニック）、リハビリテーション科、循環器内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器内科、腎臓内科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、放射線科
指定等	救急告示病院 地域医療拠点病院 在宅療養支援病院 災害協力病院 原子力災害医療協力機関
職 員 数	正規職員 172 人 （うち医師 7 人、看護師等 100 人、医療技術員 47 人、事務員等 18 人） 会計年度任用職員 67 人 （うち医師 4 人、看護師等 10 人、医療技術員 23 人、事務員等 30 人）合計：239 人 ※看護師等には保健師、准看護師含む ※特別職は除く。

2. 安来市立病院の目指す方向性

安来市立病院は、病院の中期計画である安来市立病院経営強化プラン（R6～R9）の中で以下のように【目指す姿】と望ましい姿になるための【取り組みの3本柱】を設定し、病院経営に邁進しております。

<市立病院の目指す姿>

総合診療と広域的な医療連携により、
幅広く患者を診ることができ
高次病院の後方支援の役割を担い、
自宅や施設の療養患者をサポートしていく病院

<取り組みの3本柱>

I 地域のニーズに応える医療機能への転換

I-1 総合診療、在宅医療の強化

- (1)プライマリケアによる外来診療
- (2)在宅医療の強化

I-2 回復期機能の強化

- (1)在宅医療と連携する入院
- (2)急性期機能を担う病院からの受け入れ強化

I-3 急性期機能の見直し

- (1)救急患者の受け入れ
- (2)急性期一般入院
- (3)急性期機能の対応範囲の見直し

I-4 慢性期機能の明確化

- (1)慢性期の入院
- (2)緩和ケア・終末期医療

I-5 病棟編成の見直し

I-6 新興感染症への対応

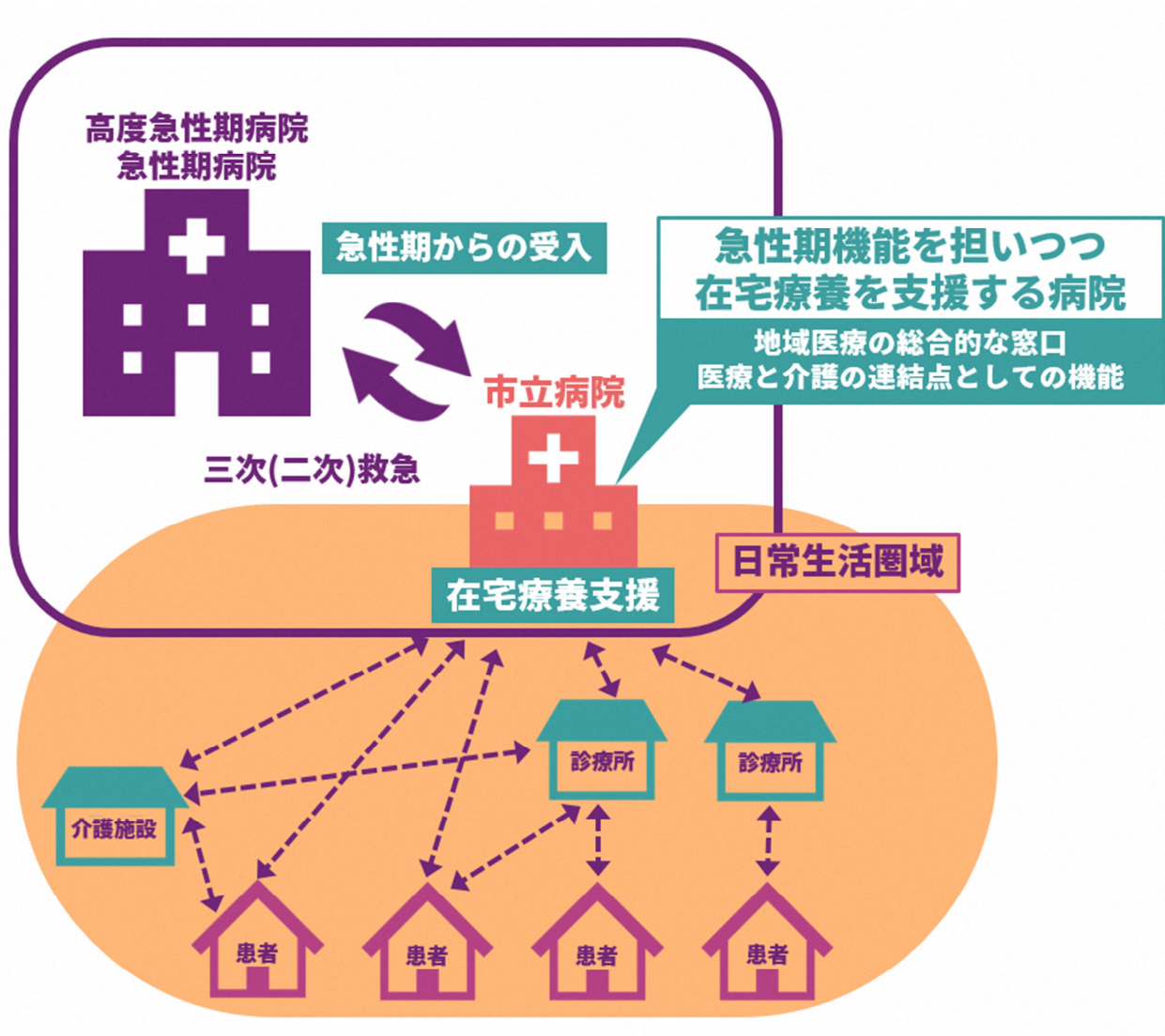
II 人材確保・育成

- (1)医師の確保
- (2)看護師、薬剤師等の確保
- (3)事務職員の育成

III 経営基盤の強化

- (1)収支状況の改善
- (2)医療機器・システムの更新、施設整備
- (3)デジタル化
- (4)院内マネジメント体制の強化
- (5)広報活動の充実

図1 安来市立病院の目指す姿のイメージ



3. 医師数の推移

常勤医師数は徐々に減少している一方、診療体制を維持するため、大学病院や関係医療機関との連携を強化し、非常勤医師や派遣医師の受け入れを組み合わせることで診療機能を確保してきました。

図 2－1 常勤医師数の推移(各年 4 月 1 日現在)

単位：人

区 分	R3	R4	R5	R6	R7
内 科	4	4	4	3	3
神経内科	1	0	0	0	0
外 科	3	3	2	0	0
整形外科	1	1	1	1	1
婦 人 科	1	1	1	1	1
小 児 科	1	1	1	1	1
麻 酔 科	1	1	1	1	1
合 計	12	11	10	7	7

図 2－2 非常勤医師数の推移(各年 4 月 1 日現在)

単位：人

区 分	R3	R4	R5	R6	R7
内 科	2.6	2.2	1.9	3	2.9
神経内科	0.2	0.3	0.3	0.9	0.9
外 科	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4
整形外科	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
小 児 科	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
放射線科	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
耳鼻咽喉科	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
眼 科	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
泌尿器科	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5
形成外科	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
皮 膚 科	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
そ の 他	0.1	0.1	0.5	0.7	0.9
合 計	5.8	5.4	5.5	7.6	7.9

※常勤換算人数（鳥取大学医学部附属病院等からの派遣医師含む）

4. 患者数の推移

入院患者数は、令和3年度の38,497人から令和5年度の37,096人まで減少傾向にありました。この間、当院では改革プラン（暫定版）に基づき経営の健全化を目指しておりましたが、感染対応や業務負担の増加などにより看護師の退職が相次ぎ、稼働病床数を調整する運用を続けていた影響が入院患者数に反映されたものと考えています。一方で、令和6年度は39,668人となり、1日平均入院患者数も108.7人へ増加しました。これは、松江・鳥取県西部医療圏域の病院間連携を強化し、後方支援病院としての受入れが増加したことに加え、高齢化に伴う入院期間の長期化の中で適切な病床管理を行ったことが寄与しています。

外来患者数は、在宅医療の開始に伴い、令和3年度の51,667人から令和4年度には52,566人へと一時的に増加したものの、その後は減少傾向が続いています。

図3 患者数の推移

単位：人、%

区 分	R3	R4	R5	R6	R7
延入院患者	38,497	37,883	37,096	39,668	38,889
1 日平均	105.5	103.8	101.4	108.7	106.5
増減率	▲ 4.3	▲ 1.6	▲ 2.3	7.2	▲ 2.0
病床利用率 (稼働病床ベース)	71.3 (94.3)	70.1 (89.1)	68.5 (88.3)	73.4 (93.7)	72.0 (91.2)
許可病床 (稼働病床)	148床 (113床)	148床 (118床)	148床 (116床)	148床 (116床)	148床 (117床)
延外来患者	51,667	52,566	49,457	47,907	44,813
1 日平均	213.5	216.4	203.6	196.3	184.4
増減率	2.1	1.4	▲ 5.9	▲ 3.6	▲ 6.1

5. 収支の状況

経常収益については、松江・鳥取県西部医療圏との連携強化により入院患者を安定的に確保でき、各種加算も最大限取得できていることから入院収益が堅調に推移しています。一方、外来患者数は発熱患者の減少や人口減少の影響で減少傾向が続き、外来収益は伸び悩んでいます。また、繰入金や補助金の増加により医業外収益も拡大し、経常収益全体を下支えする構造となっています。

経常費用については、物価高騰により材料費や委託料が上昇したものの、職員のコスト意識の浸透により影響は限定的でした。しかし、賃上げによる人件費の増加が費用増の最大要因となっており、さらに電子カルテやMRI、マンモグラフィなど老朽化した高額機器の更新が相次いだことで減価償却費も増加しています。

こうした状況のもと、当院は厳しい経営環境に直面しながらも、入院収益の安定確保や医業外収益の増加に支えられ、5年連続で黒字を維持しています。しかし、給与費や減価償却費の増加により減益傾向であり、引き続き慎重な財務運営が求められる状況です。

図4 収支の状況

単位：百万円

区 分		R3	R4	R5	R6	R7
収 益	医業収益	2,059	2,218	2,112	2,160	2,149
	入院収益	1,190	1,273	1,236	1,328	1,317
	外来収益	533	562	517	486	489
	その他	336	383	359	346	343
	医業外収益	555	566	541	580	685
	経常収益	2,614	2,784	2,653	2,740	2,834
費 用	医業費用	2,497	2,542	2,488	2,588	2,726
	給与費	1,700	1,728	1,696	1,776	1,889
	材料費	261	288	268	268	277
	経費	396	392	377	366	368
	減価償却費	137	130	133	165	187
	その他	3	4	14	13	5
	医業外費用	84	87	82	83	87
	経常費用	2,581	2,629	2,570	2,671	2,813
医 業 収 支		▲ 438	▲ 324	▲ 376	▲ 428	▲ 577
経 常 収 支		33	155	83	69	21

6. 繰入金の状況

繰入金は、基本的に総務省が示す繰出基準の範囲内で必要な財源を措置していただいております。コロナ交付金終了後は基準内繰入が増加しています。増額の背景には、地域医療を維持するための医師確保に係る経費の増加に加え、電子カルテやMRIなど高額医療機器の更新が続いたことに伴う設備投資の元利償還額の増加があります。また、R7の地震災害対応費など個別要因にも対応いただいております。必要経費に応じて繰入金が増加される状況となっています。

図5 繰入金の推移

単位：千円

区分	R3	R4	R5	R6	R7
繰出基準分	639,167	687,804	687,211	712,688	765,676
コロナ交付金※分	45,000	22,000	－	－	－
合計	684,167	709,804	687,211	712,688	765,676

※新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業

7. 現金資金の状況

R6までは入院収益の改善などにより現金残高が増加し、それに伴い一時借入金の残高も縮減するなど、資金面では安定化に向かう良い傾向が続いていました。しかしながら、R7はMRIなどの更新に伴う元利償還金の増加や給与費の上昇など現金支出が重なったことから、現金残高は伸び悩み、一時借入金を前年度比1億円増やして対応する結果となりました。こうした影響により、資金不足比率は前年度より悪化しており、財務の健全性の面でも注意が必要な状況となっています。損益上は黒字を維持しているものの、診療報酬入金のタイムラグや未収金の発生といった医療機関特有の要因も重なり、現金収支は依然として厳しい状況です。今後も資金不足比率の改善に向け、計画的な設備投資と資金繰り管理の徹底が求められます。

図6 現金資金の推移

単位：百万円、%

区分	R3	R4	R5	R6	R7
年度末現金残高	81	167	172	224	248
一時借入金残高	460	500	450	400	500
資金不足額	534	428	375	288	371
資金不足比率	25.9	19.2	17.7	13.3	17.2

※資金不足額および資金不足比率は地方財政法の基準に基づき算出したもの

参考資料（診療科別患者数）

単位：人、%

区 分	年度 項目	R3	R4	R5	R6	R7
内科	延入院患者数	23,554	23,601	22,947	26,751	27,109
	1 日平均入院患者数	64.5	64.7	62.7	73.3	74.3
	対前年増減率		0.2	▲ 3.0	16.9	1.3
	延外来患者数	26,216	27,973	26,634	27,138	24,864
	1 日平均外来患者数	108.3	115.1	109.6	111.2	102.3
	対前年増減率		6.3	▲ 4.8	1.5	▲ 8.0
外科	延入院患者数	3,299	3,217	2,592	640	63
	1 日平均入院患者数	9.0	8.8	7.1	1.8	0.2
	対前年増減率		▲ 2.5	▲ 19.6	▲ 75.2	▲ 90.2
	延外来患者数	3,524	2,941	2,450	528	456
	1 日平均外来患者数	14.6	12.1	10.1	2.2	1.9
	対前年増減率		▲ 16.9	▲ 16.7	▲ 78.5	▲ 13.3
整形外科	延入院患者数	9,842	7,903	7,275	7,394	6,075
	1 日平均入院患者数	27.0	21.7	19.9	20.3	16.6
	対前年増減率		▲ 19.7	▲ 8.2	1.9	▲ 17.8
	延外来患者数	9,323	8,940	8,022	7,893	7,534
	1 日平均外来患者数	38.5	36.8	33.0	32.3	31.0
	対前年増減率		▲ 4.5	▲ 10.3	▲ 2.0	▲ 4.2
小児科	延入院患者数	22	27	77	37	12
	1 日平均入院患者数	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0
	対前年増減率		22.7	184.4	▲ 51.8	▲ 67.6
	延外来患者数	1,387	1,887	1,871	1,650	1,435
	1 日平均外来患者数	5.7	7.8	7.7	6.8	5.9
	対前年増減率		35.5	▲ 0.8	▲ 12.2	▲ 12.7
泌尿器科	延入院患者数	27	116	139	34	52
	1 日平均入院患者数	0.1	0.3	0.4	0.1	0.1
	対前年増減率		329.6	19.5	▲ 75.5	52.9
	延外来患者数	2,864	2,715	2,670	2,792	2,777
	1 日平均外来患者数	11.8	11.2	11.0	11.4	11.4
	対前年増減率		▲ 5.6	▲ 1.7	4.1	▲ 0.1
麻酔科	延入院患者数	1,606	2,853	3,901	4,797	5,574
	1 日平均入院患者数	4.4	7.8	10.7	13.1	15.3
	対前年増減率		77.6	36.4	23.3	16.2
	延外来患者数	135	175	136	194	127
	1 日平均外来患者数	0.6	0.7	0.6	0.8	0.5
	対前年増減率		29	▲ 22	42	▲ 34
婦人科	延入院患者数	0	0	0	0	0
	1 日平均入院患者数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	対前年増減率		0	0	0	0
	延外来患者数	169	103	118	80	55
	1 日平均外来患者数	0.7	0.4	0.5	0.3	0.2
	対前年増減率		▲ 39.3	14.6	▲ 32.5	▲ 31.0

区 分	年度		R3	R4	R5	R6	R7
	項目						
耳鼻咽喉科	延入院患者数		0	0	21	1	4
	1 日平均入院患者数		0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	対前年増減率			0.0	皆増	▲ 95.2	300.0
	延外来患者数		1,015	969	1,049	1,167	1,101
	1 日平均外来患者数		4.2	4.0	4.3	4.8	4.5
	対前年増減率			▲ 4.9	8.3	10.8	▲ 5.3
形成外科	延入院患者数		85	140	111	14	0
	1 日平均入院患者数		0.2	0.4	0.3	0.0	0.0
	対前年増減率			64.7	▲ 20.9	▲ 87.4	皆減
	延外来患者数		553	601	525	407	311
	1 日平均外来患者数		2.3	2.5	2.2	1.7	1.3
	対前年増減率			8.2	▲ 12.6	▲ 22.8	▲ 23.3
皮膚科	延入院患者数		62	26	33	0	0
	1 日平均入院患者数		0.2	0.1	0.1	0.0	0.0
	対前年増減率			▲ 58.1	26.6	皆減	0
	延外来患者数		3,636	3,330	2,361	2,077	2,036
	1 日平均外来患者数		15.0	13.7	9.7	8.5	8.4
	対前年増減率			▲ 8.8	▲ 29.1	▲ 12.4	▲ 1.6
眼科	延入院患者数		0	0	0	0	0
	1 日平均入院患者数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	対前年増減率			0	0	0	0
	延外来患者数		2,127	1,920	1,866	1,895	2,096
	1 日平均外来患者数		8.8	7.9	7.7	7.8	8.6
	対前年増減率			▲ 10.1	▲ 2.8	1.1	11.1
放射線科	延入院患者数		0	0	0	0	0
	1 日平均入院患者数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	対前年増減率			0	0	0	0
	延外来患者数		269	268	333	282	308
	1 日平均外来患者数		1.1	1.1	1.4	1.2	1.3
	対前年増減率			▲ 0.8	24.3	▲ 15.7	9.7
乳腺外科	延入院患者数		0	0	0	0	0
	1 日平均入院患者数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	対前年増減率			0	0	0	0
	延外来患者数		0	0	0	151	227
	1 日平均外来患者数		0.0	0.0	0.0	0.6	0.9
	対前年増減率			0.0	0.0	皆増	50.9
介護保険	延入院患者数		0	0	0	0	0
	1 日平均入院患者数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	対前年増減率			0	0	0	0
	延外来患者数		449	744	1,422	1,653	1,486
	1 日平均外来患者数		1.9	3.1	5.9	6.8	6.1
	対前年増減率			65.0	91.1	15.8	▲ 9.7

うち在宅医療患者数

単位：人

区 分	R3	R4	R5	R6	R7
訪問診療	91	493	508	499	365
訪問看護（医療）	34	79	91	262	254
訪問看護（介護）	87	158	477	626	584
訪問リハビリ（介護）	362	572	948	1,005	883
訪問栄養指導		14	1	13	19
合 計	574	1,316	2,025	2,405	2,105

※訪問診療は往診含む